



ちょうせんじんらいちょうず
朝鮮人來朝図

1軸

江戸時代中期写
縦 69.7 cm 横 91.7 cm

豊臣秀吉の二度にわたる朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の影響で断絶していた日朝交流は徳川に政権が移ると、幕府は対馬藩を通じて朝鮮との関係修復に乗り出すことになった。その結果慶長十二年（一六〇七）ついに第一回目の朝鮮通信使来日が実現した。以後、文化八年（一八一）までの約二百年の間に將軍襲職ごとの合計十二回、朝鮮通信使が来日した。本図はその朝鮮通信使一行の行列を描いたものである。

各地を通過、江戸を目ざし、往復に約半年を要した。道中は各藩、寺院、大商人屋敷などを宿所に庶民をも巻き込む一大イベントであった。幕府の対外政策において「通信」は「通商」と明確に区別され、朝鮮は心を通わせる「通信」の国として幕府の費用で江戸城まで参府させるほど、その接待は破格の待遇であった。江戸の人たちの待ちわびた大行列が清道旗と共に通過していく様が描かれている。沿道では武士たちが護衛し、民衆は晴れ着姿で高い席料まで払い出迎えた。中には子ども



に乳房を含ませた母親も見える。一方、一行は楽器を打ち鳴らし、隊列を乱しながらも沿道の人たちに応えている。本図は九代將軍家重の襲職祝賀に来日した朝鮮通信使一行であろう。透視遠近法を採用入れた浮絵技法で描かれる筆彩画。寛延元年（一七四八）、羽川藤永筆の原画からの精密な模写と考えられる。

（天理図書館 南田尚紀）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし12月23日、24日、27～31日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）